

女子中学・高校生のファッション意識 (第1報)ファッションに関する意識と知識  
東京家政学院大家政 ○富田弘美 群馬女短大 伊藤隆子  
山梨県立女短大 小菅啓子 共立女大家政 小林茂雄

<目的>ファッションに関する物質や情報があふれている今日、中学生、高校生の着意意識や購買意識について、前回の「男子のファッション意識と知識」に引き続き、今回は女子を対象にして調査を行い二者間の特徴について比較検討した。

<方法>公立中学1年生および公立高校1年生(東京都、山梨県、群馬県)の女子それぞれ300人を対象にファッション意識に関する35項目、ファッション知識に関する4項目(雑誌、ファッション用語、ブランド名、スキン・ヘアケア商品)について、1992年11月にアンケート調査を実施した。調査データは平均値の差の検定、因子分析、因子得点とファッション知識との相関分析などにより解析した。

<結果>因子分析により中学生の場合には10個、高校生の場合には11個の基本因子が抽出された(固有値1.0以上、累積寄与率は中学生60.3%、高校生58.9%)。これらの因子は中学生ではおしゃれへの目覚め、購買行動、同調性などであり、高校生ではおしゃれ表現の他は中学生とほとんど同じ因子が抽出された。また高校生は時計、靴、バック、アクセサリなどで積極的なおしゃれ表現の意識があり、中学生は身近なヘアスタイルや大人のスーツに憧れるなどおしゃれへの目覚めが伺われる。ファッション意識の第1因子(おしゃれに関する因子)とファッション知識との関連については、相関係数の有意性の検定の結果、中学生、高校生ともに4項目との間に危険率1%で有意性が認められたが、その中で雑誌との相関が高かった。女子のファッション意識の因子構造は男子の場合とほぼ同様の傾向が認められたが女子は男子に比べ、多様な意識が伺われた。